取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AURIS

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS　目次

1
2
3
4
5
6

3-5. その他の室内装備の使い方

4 お手入れの仕方

4-1. お手入れの仕方

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

さくいん

外観

ワイパー P. 162
方向指示灯 P. 133
ムーンルーフ ＊ P. 63
ヘッドライト（ロービーム）
P. 157
ドアミラー P. 57
ボンネット P. 247
方向指示灯 P. 133
ヘッドライト（ハイビーム）P. 157
フロントフォグライト ＊ P. 161
車幅灯 P. 157

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

運転席 SRS エアバッグ P. 75
ホーン P. 135
シフトレバー P. 125, 131
助手席アッパーボックス P. 225
助手席 SRS エアバッグ P. 75
パーキングブレーキ P. 134
ヘッドレスト P. 48
シートベルト P. 50
パワーウインドウスイッチ P. 59
A
B
C
CTNPIAE212
グローブボックス P. 222
フロントシート P. 44
SRS サイドエアバッグ ＊ P. 75
リヤセンターアームレスト ＊ P. 230
カップホルダー ＊ P. 224

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

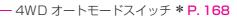
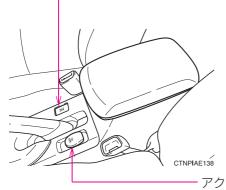
B

パワーウインドウスイッチ P. 59

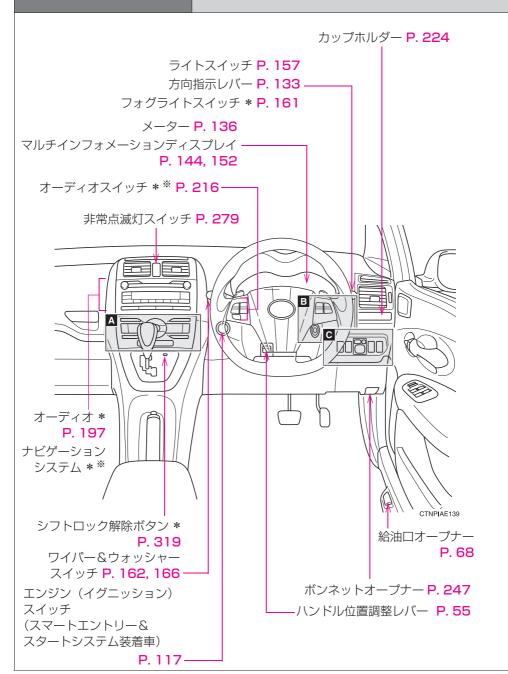
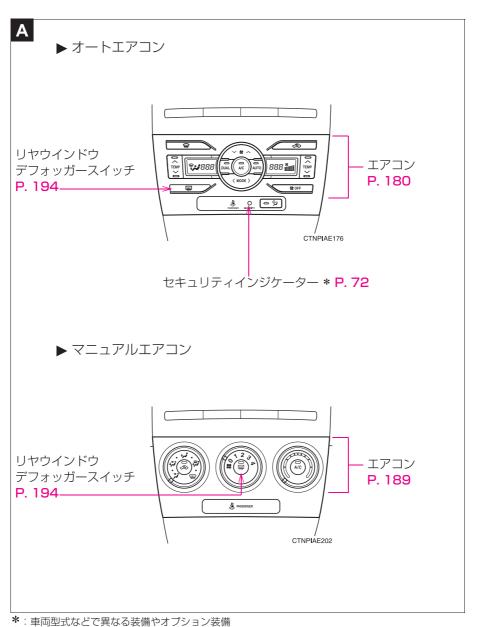
ドアロックスイッチ P. 35

ウインドウロックスイッチ P. 59

CTNPIAE011

C

アクセサリーソケット P. 229

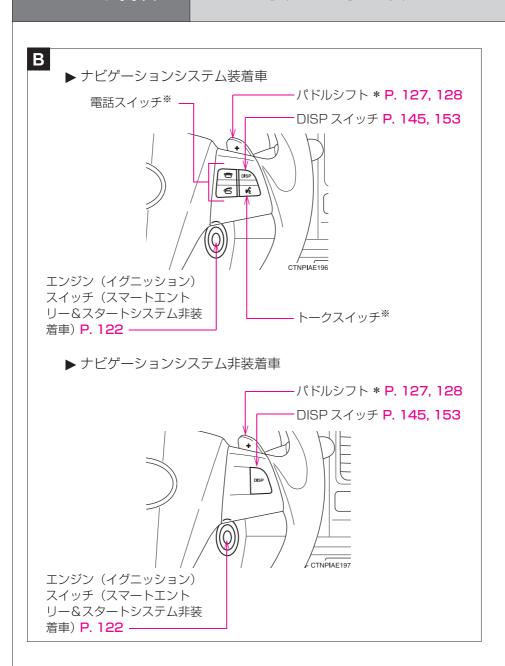
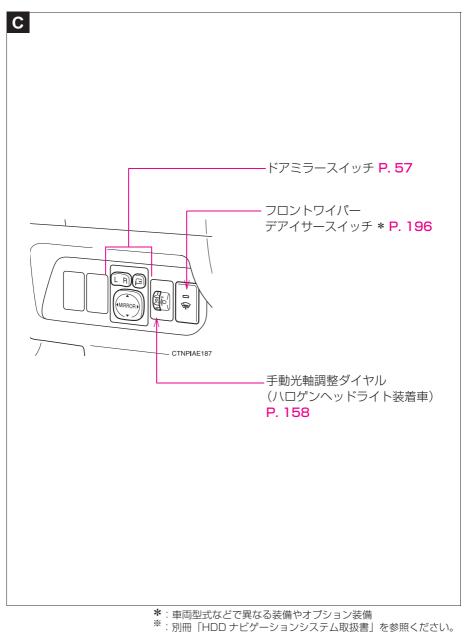
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：ナビゲーションシステム装着車は別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

B

▶ナビゲーションシステム装着車
電話スイッチ※
パドルシフト＊ P. 127, 128
DISP スイッチ P. 145, 153
DISP
CTNPIAE196
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）P. 122
トークスイッチ※
▶ナビゲーションシステム非装着車
パドルシフト＊ P. 127, 128
DISP スイッチ P. 145, 153
DISP
CTNPIAE197
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）P. 122

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりではなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

ほかの車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 94）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

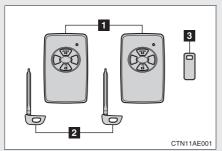
運転する前に

1

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

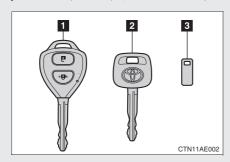
CTN11AE001

1 電子キー

・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 22)
・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 32)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

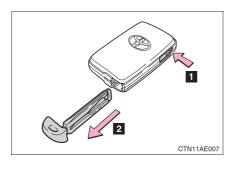
CTN11AE002

1 キー(ワイヤレス機能装着)

ワイヤレス機能の作動 (→P. 32)

2 キー(ワイヤレス機能非装着)

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

CTN11AE007

メカニカルキーを取り出す

使用後は元に戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 321)

知識

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。
(→P. 320)

■航空機に乗るときは

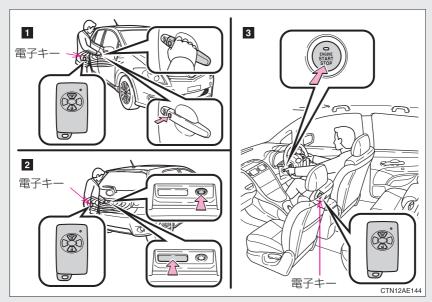
航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- 分解しないでください。

スマートエントリー＆スタートシステム*

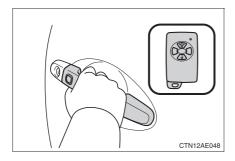
電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの施錠・解錠 （→P. 23）

2 バックドアの施錠・解錠 （→P. 24）

3 エンジンの始動 （→P. 117）

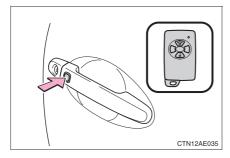
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

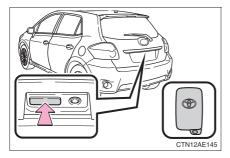
CTN12AE048

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

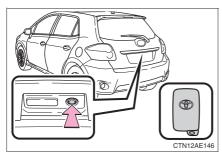
施錠操作後３秒間は解錠できません。

CTN12AE035

ロックスイッチを押して施錠する

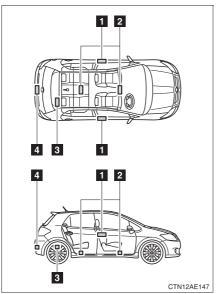
バックドアの解錠・施錠

CTN12AE145

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後約３秒間は、解錠できません。

CTN12AE146

ロックスイッチを押して施錠する

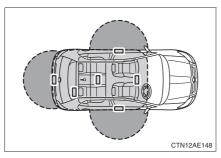
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 ラゲージルーム内アンテナ

4 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

：ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

：エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。
（対処方法 →P. 321）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したたばこの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・ＣＤ や ＤＶＤ などのメディア

●複数の電子キーが近くにあるとき

●電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡ など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

■**節電機能**

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●2 週間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 32）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 321）

■**電池の消耗について**

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 29、300）

●電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 269）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ ＴＶ
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内(検知エリア内)にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- ・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネル上やフロア上、パッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。)

●手袋を装着していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠をおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度元の位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

●警告灯が点灯した場合
状況に応じて適切に対処してください。（→P. 289）

●マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示された場合（オプティトロンメーター装着車）
ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 295）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアをスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ピー”と 1 回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください。(→P. 269)
車内から“ピー”と鳴り続ける(オートマチック車)	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドア・バックドアの施錠、解錠（→P. 321）

●エンジン始動（→P. 321）

■電池が切れたときは

→P. 269

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 345）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

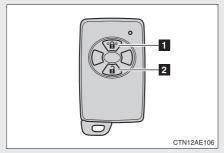
●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。（→P. 25）

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

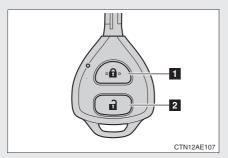
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■作動の合図

ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 26

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

以下のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- ●近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- ●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 27

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します。）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 269）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 29

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P. 321

■電池が切れたときは（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

→P. 269

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 345）

ドア（フロントドア、リヤドア）

スマートエントリー&スタートシステム * やワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム *

→P. 23

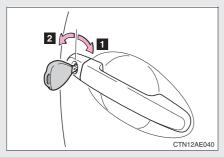
■ ワイヤレス機能

→P. 32

■ キー

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 321）

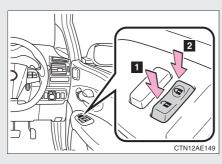
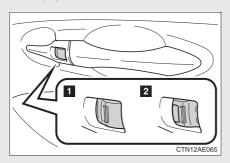
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

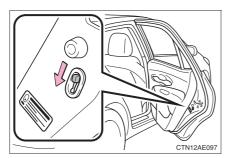
“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに差してあるときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

CTN12AE097

施錠側にすると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは以下の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

▶ ドアロックスイッチ

→P. 35

▶ スマートエントリー&スタートシステム*

→P. 24

▶ ワイヤレス機能

→P. 32

▶ キー

→P. 35

■ バックドアの開け方

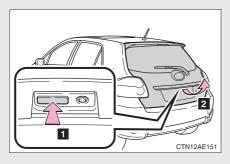
1 ロックを解除する

2 引き上げる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

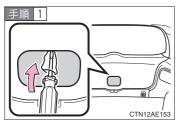
知識

■バックドアを閉めるときは

CTN12AE166

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

CTN12AE153

マイナスドライバーと当て布を使ってカバーを取りはずす

CTN12AE068

レバーを押す

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

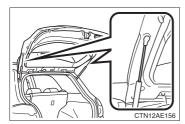
●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

警告

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

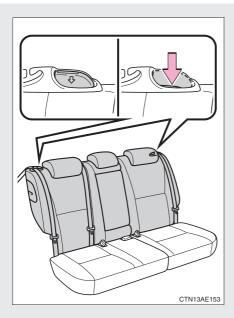
2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

⚠ 警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

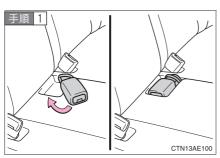
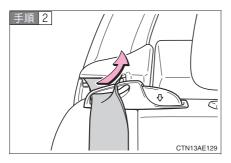
リヤシート

リクライニング調整

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

背もたれを前に倒す

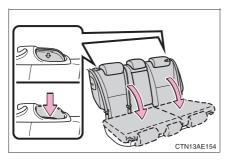
■ 前に倒すまえに

中央バックルを格納する

CTN13AE129

シートベルトをガイドからはずす

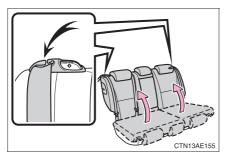
シートベルトをガイドからはずさずに背もたれを倒すと、ベルトがロックされる場合があります。

■ 前に倒すときは

CTN13AE154

ロック解除ボタンを押しながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

■ 背もたれを元の位置にもどすときは

CTN13AE155

ベルトをシートとシート側面に挟まないよう手に持ちながら、ロックされるまで背もたれを元の位置にもどす。背もたれが確実にロックされたことを確認し、シートベルトをガイドに通す

警告

■ **リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

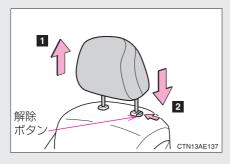
■ **背もたれを元の位置にもどした後は**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

CTN13AE081

● 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
背もたれが確実に固定されていないときは、ロック解除ボタンの後方に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

● シートベルトがシート下に挟み込まれていないか確認する

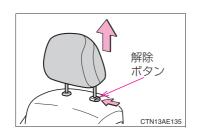
● シートベルトを正しく装着するために、ベルトがガイドに通っていることを確認する

ヘッドレスト

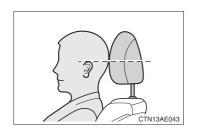
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストの使用について

常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

すべての乗員は走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

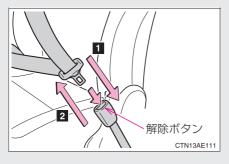
● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

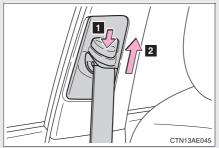
● ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

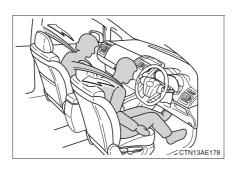
2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

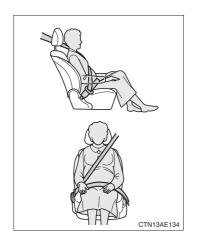
前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停車や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

CTN13AE134

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 50)
妊娠中のかたも、通常の着用の仕方と同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 94)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用の仕方にしたがってください。(→P. 50)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■リヤシート（外側席）をご使用になる場合

シートベルトがガイドから外れていたら、ベルトをガイドに通してからシートベルトを着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトは一つにつき一人で使用する
お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する

●シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

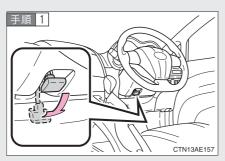
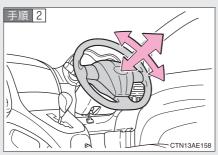
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下·前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

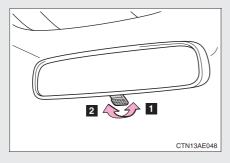
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

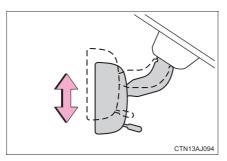
■ハンドル位置を調整した後は

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

2 防眩時

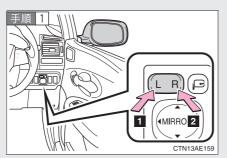
上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

⚠ 警告

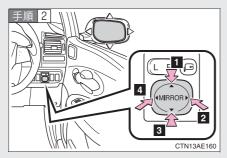
■**運転中の警告**

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

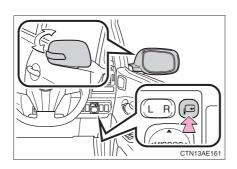
1 左

2 右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、元の位置にもどります。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ミラーヒーター*について

ミラーが曇ったときは、ミラーヒーターを作動させて曇りを取ることができます。(→P. 194)

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

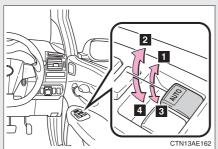
手を触れないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーター*が作動しているときは

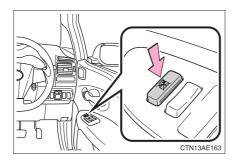
鏡面が熱くなるので触れないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉（運転席のみ）※
3 開ける
4 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

■“エンジンスタートストップ”スイッチ OFF（またはエンジンスイッチ“LOCK”）後の作動

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、運転席ドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。

● お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能（運転席のみ）**

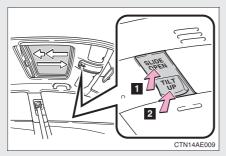
● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ＊

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ / ダウンできます。

■ 自動開閉

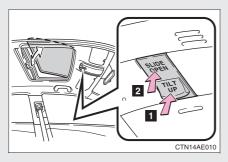
CTN14AE009

1 開く

全開手前位置で止まります。全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン

CTN14AE010

1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

＊: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

■“エンジンスタートストップ”スイッチ OFF(またはエンジンスイッチ“LOCK”)後の作動

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置(全開手前位置)で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■閉め忘れ警告ブザー

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、エンジンスイッチが“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“TILT UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“TILT UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度“TILT UP”側を押し続ける※1
ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※1 途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※2 10秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“TILT UP”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中はルーフから手や顔を出さない
- ●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- ●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- ●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

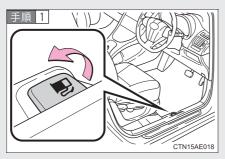
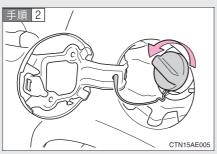
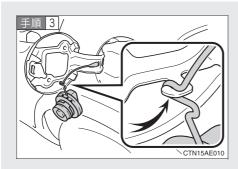
■ 給油する前に

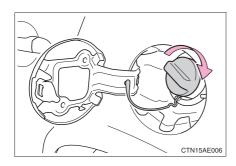
▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ドアとドアガラスを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてください。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。

■ 給油口の開け方

レバーを引く

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン（オートマチック車）または無鉛プレミアムガソリン（マニュアル車）

■燃料タンク容量（参考値）

50 L

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
  ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- ●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- ●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

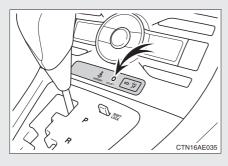
■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 44）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 44）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 44）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 55）

5 ヘッドレストの中央を耳の後方にする（→ P. 48）

6 シートベルトを正しく着用する（→ P. 50）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

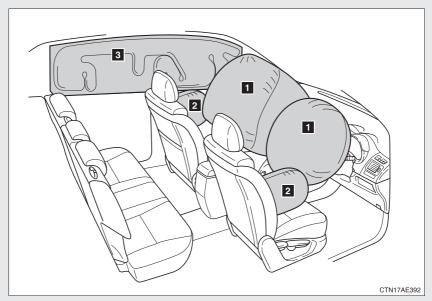
●フロントシートの下に物を置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ*
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ*
（フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

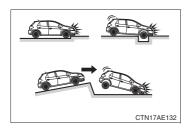
- SRS　エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。（SRS カーテンシールドエアバッグ装着車）
- フロント席などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。（SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車）
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

CTN17AE132

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＊& SRS カーテンシールドエアバッグ＊）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、次の操作を行ってください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあと、エンジンを再始動する。

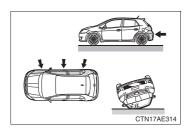
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあと、エンジンを再始動する。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

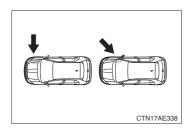
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

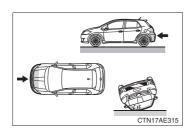
CTN17AE314

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ＊ & SRS カーテンシールドエアバッグ＊）

斜めから衝撃を受けた場合や、車内部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

CTN17AE338

- ●車内部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

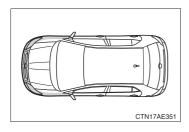
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

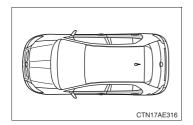
●後方からの衝突

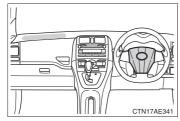
●横転

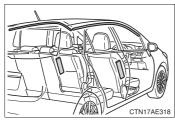
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTN17AE316

●SRSサイドエアバッグ*とSRSカーテンシールドエアバッグ*はふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTN17AE341

●ハンドルのパッド部分や助手席ダッシュボードが、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTN17AE318

●SRS サイドエアバッグ*が内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグ*が内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→P. 94)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

CTN17AE083

●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。（SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車）

CTN17AE084

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。（SRS サイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車）

CTN17AE342

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

CTN17AE343

●ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。（SRS サイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車）

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグ装着車は、この車専用のトヨタ純正用品(シートカバーなど)以外のものを取り付けないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。(SRS カーテンシールドエアバッグ装着車)

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。(SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車)

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両車内側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、Ⅰ に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ、Ⅱ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着座位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td></tr>
<tr><td>0+（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ（9 ～ 18kg）</td><td>前向き UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">U</td></tr>
<tr><td>後向き ×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>U</td></tr>
<tr><td>Ⅲ（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>U</td></tr>
</table>

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認下さい。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置 リヤシート 左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認下さい。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+} （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談下さい。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 87）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 88）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例１）：体重が 12kg の場合、質量グループは「０＋」になります。

（例２）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例１）：質量グループが「０＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例２）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B１」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 89）で指定されている製品を使用してください。

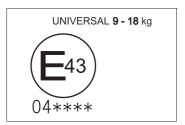
子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

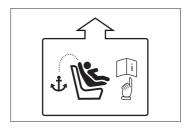
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 94）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

背もたれを直立状態にする

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

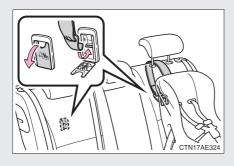
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

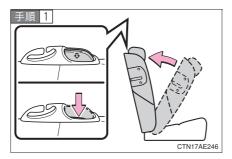
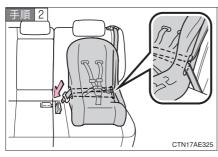
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品に付属の取扱説明書にしたがってください。

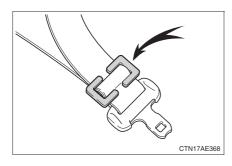
1 シートベルトによる取り付け (→P. 95)

2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→P. 96)

リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています。)

3 トップテザーアンカー (→P. 96)

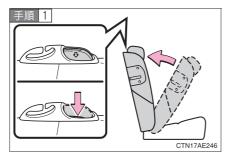
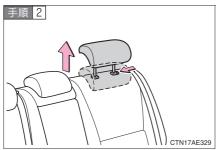
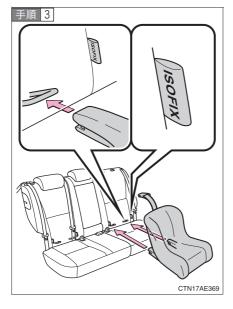
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートの外側の座席に装備されています。

シートベルトで固定する

ロック解除ボタンを押しながら、背もたれを一度前方に倒す。背もたれを立てて1段目の固定位置で固定する（→P. 47）

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする

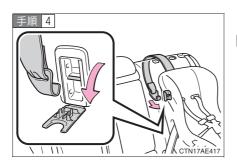
チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

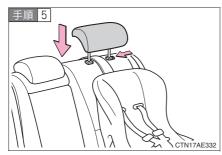
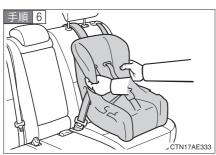
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ロック解除ボタンを押しながら、背もたれを一度前方に倒す。背もたれを立てて１段目の固定位置で固定する（→P. 47）

ヘッドレストをはずす

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシート付属の取扱説明書にしたがってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

ヘッドレストを取り付ける

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停車の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車)
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

CTN17AE469

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

CTN17AE312

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→P. 95、96）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに

2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける

→P. 117, 122

■ 発進する

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 125）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 134）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→P. 131）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 134）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 125）

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。

■ 駐車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 134）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 125）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 エンジンを止める

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“LOCK”にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 134）

手順 3 シフトレバーを N にする（→P. 131）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速またはRにし、輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 エンジンを止める

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“LOCK”にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進の仕方

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転（オートマチック車）

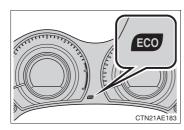
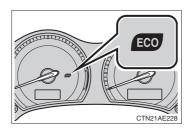
エコドライブインジケーターランプが点灯すると、環境に配慮したアクセル操作をしていることを知らせます。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。（車速が約 100 km/h 以下のとき D ポジションで作動します。ただし、パドルシフト装着車の場合パドルシフト使用時は作動しません。）

▶ オプティトロンメーター

CTN21AE183

▶ アナログメーター

CTN21AE228

警告

■**発進するときは**

オートマチック車では、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

警告

●オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D（オートマチック車）または 1（マニュアル車）に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除されエンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもステアリングやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はステアリングとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 332 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 127）

●坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

警告

- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、そのほかの体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■シフトレバーを操作するときは（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP(オートマチック車）にしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**ブレーキをかけるときは**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、ほかの車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
  ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

警告

● ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

注意

■**運転中は（オートマチック車）**

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。
運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■**運転中は（マニュアル車）**

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。
運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

・クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
・1 速以外での発進は避ける
・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない

●車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■**駐車するときは**

オートマチック車では、必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■**部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。（→P. 306）

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して以下の操作をおこなうことで、エンジンの始動または“エンジンスタートストップ”スイッチのモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

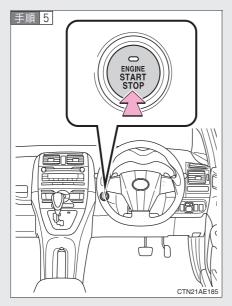
▶ オートマチック車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 73）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

“エンジンスタートストップ”スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

“エンジンスタートストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

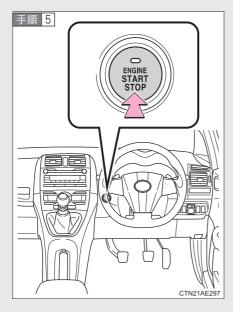
▶ マニュアル車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 73）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

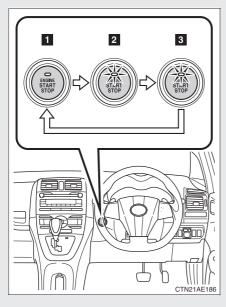
スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

“エンジンスタートストップ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまで各ペダルを踏み続けてください。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

“エンジンスタートストップ” スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■“エンジンスタートストップ”スイッチのモード切り替え

ブレーキペダル（オートマチック車）またはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります。）

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

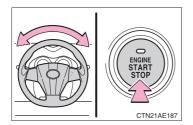
すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※：オートマチック車：シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■ステアリングロックを解除するには

CTN21AE187

ステアリングを左右に動かしながら、“エンジンスタートストップ”スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 72)

■“エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

▶ オートマチック車

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動で OFF になります。

▶ マニュアル車

1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 27

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 269

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 26

■ご留意いただきたいこと

→P. 28

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジンスタートストップ”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジンスタートストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■ エンジンのかけ方

▶ オートマチック車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 73）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

▶ マニュアル車

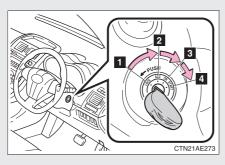
手順 1 正しい運転姿勢（→P. 73）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

手順 5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジンスイッチの位置

1 “LOCK”(OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- キーを抜き挿しすることができます。
（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき､キーを抜き挿しできます）

2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

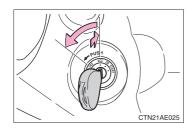
すべての電装品が使用できます。

4 “START”

エンジンが始動できます。

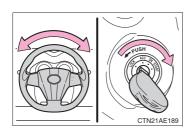
知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

CTN21AE025

手順 1 シフトレバーが N（マニュアル車）または P（オートマチック車）の位置にあることを確認する

手順 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

CTN21AE189

ステアリングを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

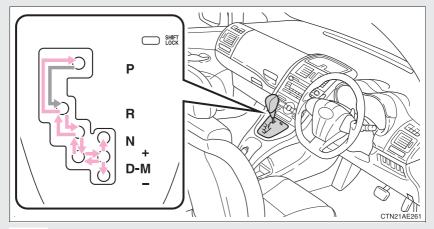
■エンジンを始動するとき

- ●一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- ●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- ●もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

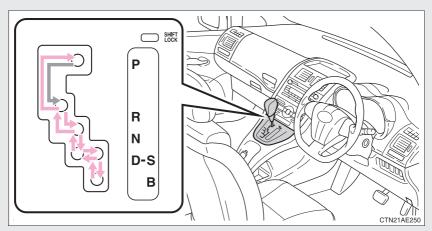
オートマチックトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

▶ 2ZR-FAE エンジン搭載車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチが “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

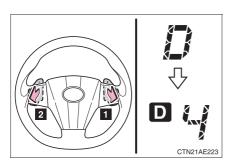
▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2ZR-FAE エンジン搭載車	1NZ-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	通常走行※
	レンジの選択（→ P. 127）（パドルシフトスイッチ操作時）	
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→ P. 128）	
S		坂道走行
B		急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常時は D ポジションを使用してください。

D ポジションでの変速段選択（2ZR-FAE エンジン搭載車）

シフトレバーを D の位置で走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。

1 シフトアップ

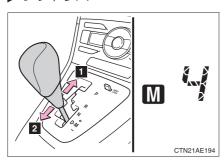
2 シフトダウン

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “+” 側を一定時間以上保持します。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切り替え(2ZR-FAE エンジン搭載車)

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切り替わります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作で変速段を選択することができます。

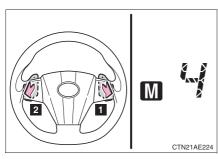
▶ シフトレバー

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

変速段の数字が小さいほうがエンジンブレーキ力は大きくなります。

▶ パドルシフトスイッチ

1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

変速段の数字が小さいほうがエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■ 7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに関する自動変速について (2ZR-FAE エンジン搭載車)

● エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に1段シフトアップされます。

● エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に1段シフトダウンされます。

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除 (2ZR-FAE エンジン搭載車)

以下のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

● 車両停止状態のとき

● 同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

● アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■ シフトダウン制限警告ブザー(7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります。)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 319

■ シフトレバーを M にしても、M 表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは (2ZR-FAE エンジン搭載車)

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■NAVI・AI-SHIFT について

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■M ポジションで走行中に停車したときは (2ZR-FAE エンジン搭載車)

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停止後走行するときは M1 からの発進となります。

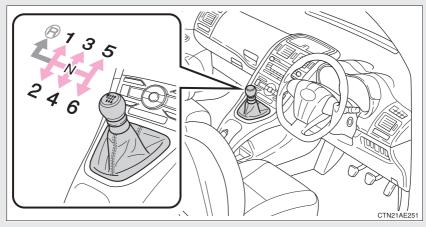
●停止後は M1 に固定されます。

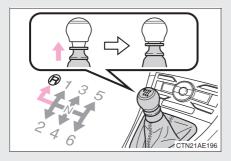
警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

マニュアルトランスミッション*

■ シフトレバーの動かし方

クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。

■ R へのシフト操作

プルカラーを引き上げながら、R に入れます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

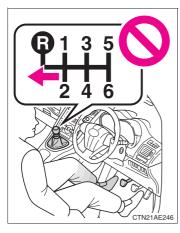
■各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

(km/h)

シフト位置	最高速度
1	49
2	92
3	134
4	180

注意

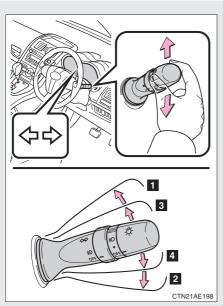
■トランスミッションの損傷を防ぐために

●クラッチペダルを踏まずにシフトレバーをＲに入れないでください。

●Ｒへシフトするとき以外は、プルカラーを上へ引かないでください。

●Ｒへシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

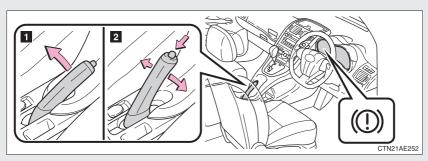
“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキがかかる

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキが解除される

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

知識

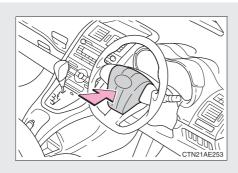
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 174)の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [horn icon] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

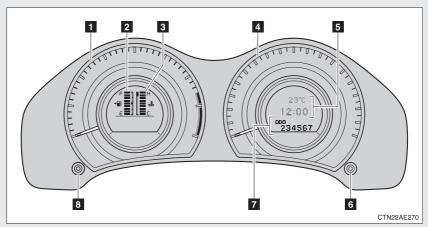
知識

■ハンドル位置を調整した後は

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 55）

計器類

▶ オプティトロンメーター

CTN22AE270

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 燃料計

燃料残量を示します。

3 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 144

6 表示切り替えボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整画面の切り替えができます。(→P. 139)

7 オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整画面

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

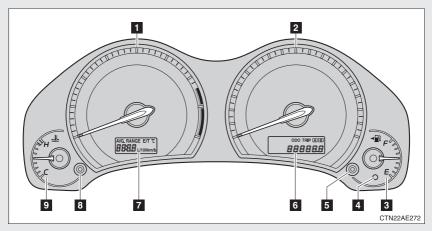
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整画面

メーター照度の明るさを調整できます。

8 DISP ボタン

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。

▶ アナログメーター

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 燃料残量警告灯

燃料の補給を知らせます。(→P. 291)

5 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタン

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離が 0 にもどります。

6 オドメーター、トリップメーター

- オドメーター

  走行した総距離を表示します。

- トリップメーター

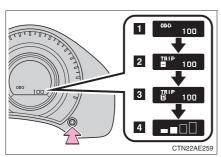
  リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

7 マルチインフォメーションディスプレイ
→P. 152

8 DISP ボタン
マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。

9 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。

表示切り替えボタン（オプティトロンメーター）

ボタンを押すごとに以下のように切り替わります。

1 オドメーター
2 トリップメーター A※1
3 トリップメーター B※1
4 メーター照度調整画面※2（ヘッドライト点灯時のみ表示されます。）

※1 長押しで 0 にもどります。
※2 長押しで照度を調整できます。

⚠ 注意

■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

● タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

● 水温計の一番上の目盛りが点滅したとき（オプティトロンメーター）、またはゲージが H のレッドゾーンに入ったとき（アナログメーター）は、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 328）

2
運転するときに

表示灯／警告灯

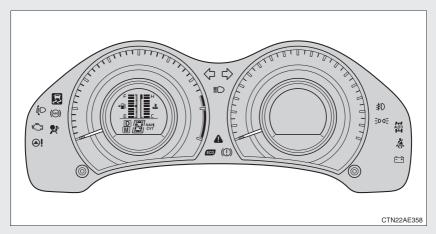
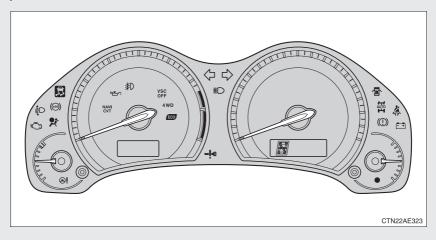
メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

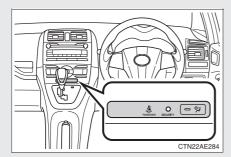
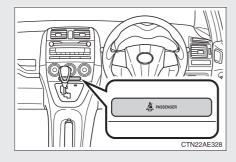
■ メーター

▶ オプティトロンメーター

CTN22AE358

▶ アナログメーター

CTN22AE323

■ センターパネル

▶ タイプ A

▶ タイプ B

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 133）

尾灯表示灯*（→P. 157）

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 157）

フロントフォグライト
表示灯*（→P. 161）

SECURITY

エンジンイモビライザーシ
ステム表示灯*（→P. 72）

※
4WD オートモード
表示灯*（→P. 168）

NAVI CVT 表示灯*
（→ 別冊「HDD ナビゲー
ションシステム取扱書」参
照）

※
（点滅）
スリップ表示灯*
（→P. 169）

※
エコドライブインジ
ケーターランプ*
（→P. 107）

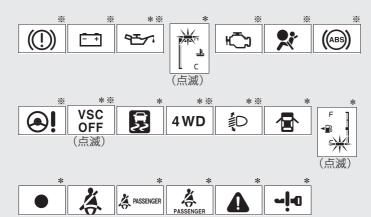
シフトポジション・シフトレンジ表示
灯*（→P. 125）

シフトポジション表示灯*
（→P. 125）

※作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー & スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ **警告灯**

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 289)

※作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションON モード(スマートエントリー & スタートシステム装着車)、またはエンジンスイッチを“ON”(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード(スマートエントリー & スタートシステム装着車)、またはエンジンスイッチを“ON”(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ（オプティトロンメーター）

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

CTN22AE276

● 外気温表示

外気温を表示します。

● 時計表示

時刻を表示します。

● 日付表示

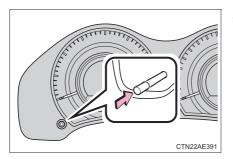
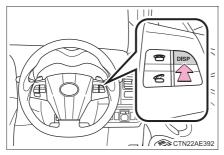
日付を表示します。

● トリップインフォメーション

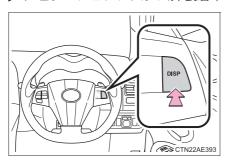
航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

● 警告メッセージ（→P. 295）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

表示切り替え

表示を切り替えるには、DISP ボタンを押します。

▶ ナビゲーションシステム装着車

ステアリングの DISP スイッチを押して操作することもできます。

▶ ナビゲーションシステム非装着車

● 外気温、時計

23℃
12:00

外気温と時刻を表示します。

外気温：－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

時計：正時合わせをすることができます。(→P. 150)

● 日付、時計

'09. 1. 1
12:00

日付と時刻を表示します。

時計：正時合わせをすることができます。(→P. 150)

● 瞬間燃費

瞬間
20.0km/ℓ

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

平均
10.0km/ℓ

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを長押しします。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 航続可能距離

航続可能
345km

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを長押しします。

● 走行時間

走行時間
1:00

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンを長押しします。

時計 / 日付の設定変更

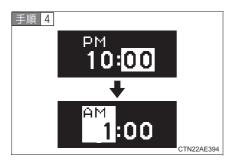
■ 設定項目の選択

停車した状態で、DISP　ボタン（→P. 145）を押して設定画面を表示させる

DISP ボタンを長押しし、選択画面を表示させる

手順 3 DISP ボタンを押して設定項目を選択し、DISP ボタンを長押しする

● “時計”を選択した場合

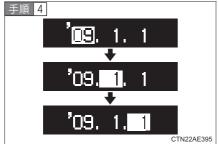
CTN22AE394

DISP ボタンを押して“分”を調整する。5 秒経過し決定されたら“時”を調整する

調整終了後、5 秒経過すると決定し 手順 2 の画面にもどります。

● “日付”を選択した場合

CTN22AE395

DISP ボタンを押して“年”を調整する。5 秒経過し決定されたら“月”を調整する。同様に“月”を調整後“日”を調整する

調整終了後、5 秒経過すると決定し 手順 2 の画面にもどります。

● “終わり”を選択した場合

手順 1 の画面にもどります

知識

■システムチェック表示*

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）またはエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にしたとき、システムの作動確認のため「チェック中 VSC 4WD」と表示されます。チェックが終わると前に表示されていた画面表示になります。

■正時合わせについて

正時合わせ※をするときは、以下の手順をおこなってください。

※ : 1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

手順 1 時計表示中に DISP ボタンを表示が点滅するまで長押しする

手順 2 DISP ボタンを「リセットしました」と表示されるまで長押しする

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着をおこなうとき、以下のデータはリセットされます。

・時計
・日付
・平均燃費
・航続可能距離
・平均車速
・走行時間

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

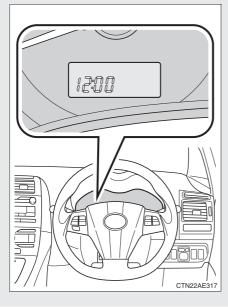
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ（アナログメーター）

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

● 時計表示

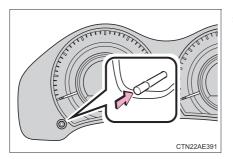
時刻を表示します。

● 外気温表示

外気温を表示します。

● トリップインフォメーション

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

表示切り替え

CTN22AE391

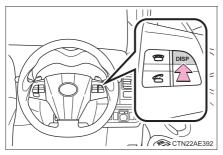
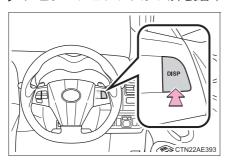
表示を切り替えるには、DISP ボタンを押します。

▶ ナビゲーションシステム装着車

CTN22AE392

ステアリングの DISP スイッチを押して操作することもできます。

▶ ナビゲーションシステム非装着車

CTN22AE393

● 時計

時刻を表示します。

● 外気温

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを長押しします。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを長押しします。

● 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンを長押しします。

時計の設定変更

■ 正時合わせ※の仕方

※：1:00 ～ 1:29 → 1:00
　　1:30 ～ 1:59 → 2:00

手順 1 停車した状態で時計表示中に、表示が点滅するまで DISP ボタン（→P. 153）を長押しする

手順 2 点滅中に DISP ボタンを長押しする

■ 時計設定の仕方

手順 1 停車した状態で時計表示中に、表示が点滅するまで DISP ボタンを長押しする

手順 2 点滅中に DISP ボタンを短押しする

手順 3 DISP ボタンを押して“分”を設定する

調整終了後、5 秒経過すると決定します。

手順 4 DISP ボタンを押して“時”を設定する

調整終了後、5 秒経過すると決定します。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着をおこなうとき、以下のデータはリセットされます。

・ 時計
・ 平均燃費
・ 航続可能距離
・ 平均車速
・ 走行時間

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

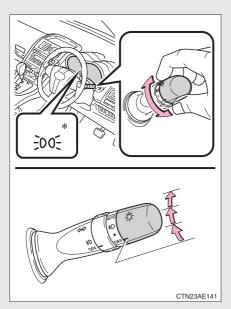
●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

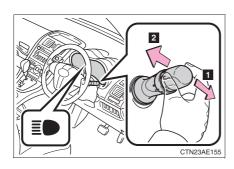
ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

● 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

上記ライトとヘッドライトを点灯

AUTO＊ ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

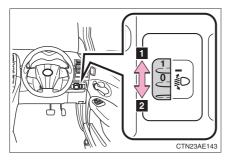
レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどるまたは消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

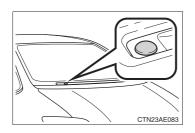
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF（前輪駆動）	4WD（4 輪駆動）
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	1.5	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.0	1.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.0	2.5

知識

■ライトセンサー*

CTN23AE083

センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能*

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■ライト消し忘れ警告ブザー*

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあり、“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあり、エンジンスイッチからキーを抜いた状態で運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 345）

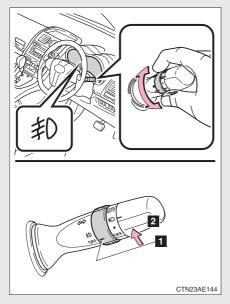
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

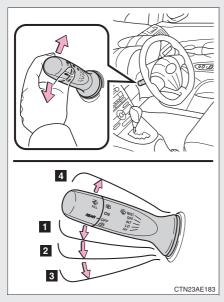
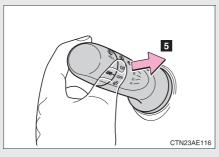
知識

■点灯条件

ヘッドライト、または車幅灯が点灯しているときに使用できます。

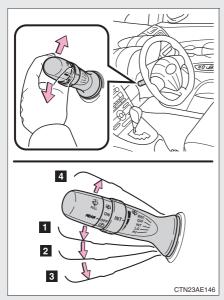
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

▶ 間欠ワイパー

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

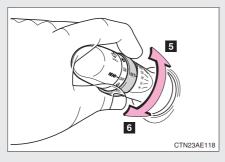
ワイパーが連動して作動します。

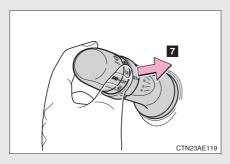
▶ 間欠時間調節式ワイパー

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）

6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

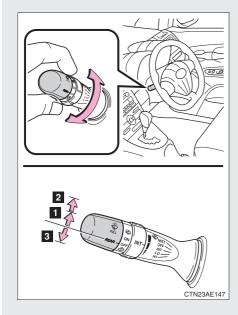
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

1 通常作動

2 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

3 ウォッシャー液を出す

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

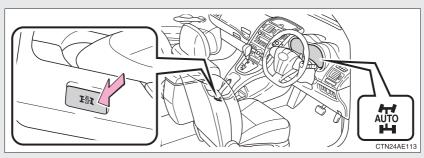
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモードスイッチ*

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて ＦＦ（前輪駆動）走行と 4WD（４輪駆動）走行を自動的に切り替えます。

4WD オートモードを使用する

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

再度押すと解除されます。

知識

■4WD オートモード表示灯について

●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。
表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま以下の対応をおこなってください。

・ 表示灯が点滅しなくなるまで車速を落とす。
・ 表示灯が点滅しなくなるまで停車する。（エンジンは停止しない）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）*

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

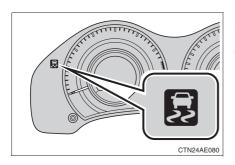
■ TRC（トラクションコントロール）*

すべりやすい路面での発進時や加速時に前輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

VSC、TRC が作動しているとき

CTN24AE080

車両が横すべりしそうになったとき、車輪が空転したときは、VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度で元の状態にもどります。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ **ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ **TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ **スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■ **タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 342)
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、クラッチ・ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - パッケージトレイ
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - ふたのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。（→P. 242）

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（タイヤについて →P. 242）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R 上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・安全に作業できる場所でおこなう
・前 2 輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがう
・取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締めなおしをおこなう

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを越える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル、急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

オートエアコン*

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1

を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは運転席側の

の∧を、下げるときは∨を押す

手順 3

を押す

を押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

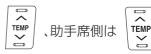
■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 DUAL を押す

手順 3 設定温度を上げるときは、運転席側は

の∧を、下げるときは∨を押す

再び DUAL を押すと、連動モードになります。

手順 4 A/C を押す

A/C を押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

を押す

A/C を押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは、運転席側は TEMP 、助手席側は TEMP の∧を、

下げるときは∨を押す

連動モード使用時、助手席側の TEMP または DUAL を押すと独立モードに切り替わります。

■ 風量をかえるには

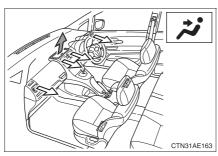
の ∧（増）か ∨（減）を押す

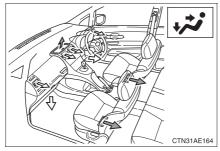
風量は７段階に調整できます。

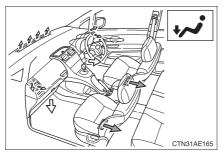
送風を止めるときは OFF を押す

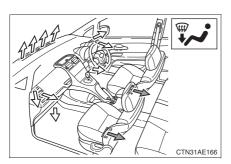
■吹き出し口を切り替えるには

MODE の < 側か > 側を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

：車両型式などで設定の有無あり

上半身と足元に送風

：車両型式などで設定の有無あり

足元に送風

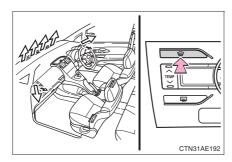
：車両型式などで設定の有無あり

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：車両型式などで設定の有無あり

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには

曇りを取る

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度同じボタンを押すと前のモードに戻ります。

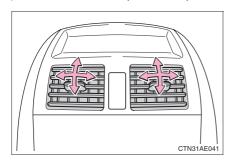
花粉除去機能を使うには

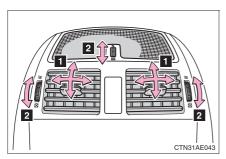
を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に） を押す前のモードにもどります。

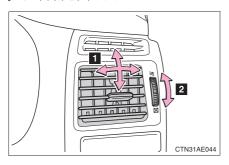
途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口 (タイプ A)

風向きの調整

▶ 中央吹き出し口 (タイプ B)

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラス窓曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

●内気循環に切り替わらない

●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

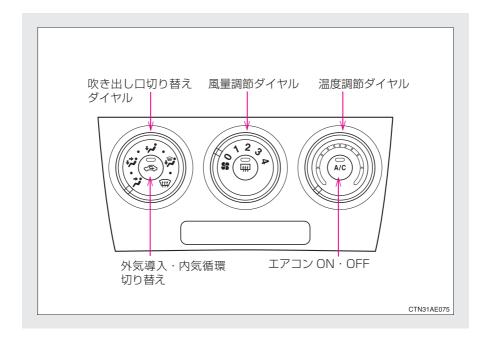
■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

マニュアルエアコン*

エアコンの設定

■ 温度をかえるには

温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

が押されてない場合は送風または暖房で使用できます。

■ 風量をかえるには

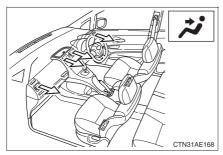
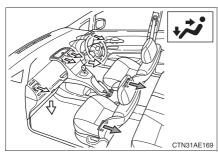
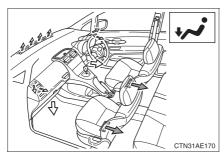
風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

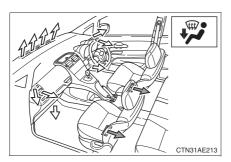
送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■吹き出し口を切り替えるには

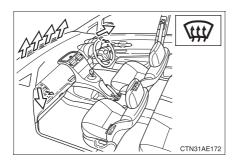
吹き出し口切り替えダイヤルを回し吹き出し口を選ぶ

ダイヤル位置を各吹き出し口の間にすると、吹き出し口を細かく選択できます。

上半身に送風

上半身と足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

ガラスの曇りを取る

自動的に外気導入に切り替わります。

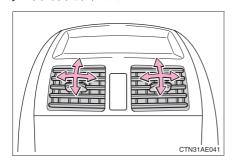
を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

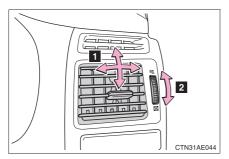
■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

を押す

ボタンを押す度に外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは表示灯が点灯します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

風向きの調整

▶ 左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■吹き出し口を　にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調整ダイヤルの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

注意

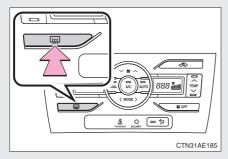
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

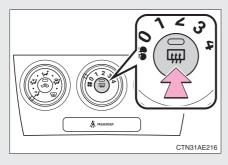
リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

▶ オートエアコン装着車

CTN31AE185

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

▶ マニュアルエアコン装着車

CTN31AE216

オン／オフ

知識

■ミラーヒーター*について

リヤウインドウデフォッガーをオンにするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

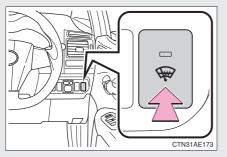
■ミラーヒーター*作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントワイパーデアイサー＊

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

CTN31AE173

オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

警告

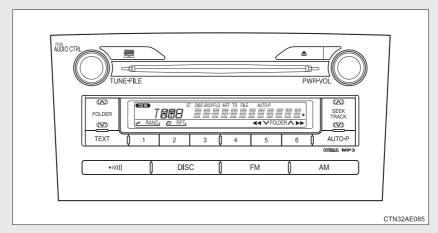
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオ＊の種類

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「HDD ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 199
CD プレーヤーの使い方	P. 201
ＭＰ３／ＷＭＡ ディスクの聴き方	P. 207
快適に聴くために	P. 214
オーディオスイッチでの操作	P. 216

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聴いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■**オーディオの取り扱いについて**

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオ＊の使い方

周波数の調整
周波数の探索
電源
音量
選局
交通情報
AM/FM の切り替え
放送局の自動設定
CTN32AE086

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 TUNE•FILE をまわして、または SEEK TRACK の“∧”（高い周波数）または“V”（低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を“ピッ”と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

AUTO•P を“ピッ”と音が鳴るまで押す

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ピッピッ”と音が鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

交通情報を受信する

•))))) を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ •))))) について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき •))))) を "ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を •))))) に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz に戻ります。

● •))))) を 押して、ラジオを受信しているときは、SEEK TRACK ・ TUNE•FILE ・ 1 〜 6 ・ AUTO•P を操作しても、周波数は切り替わりません。

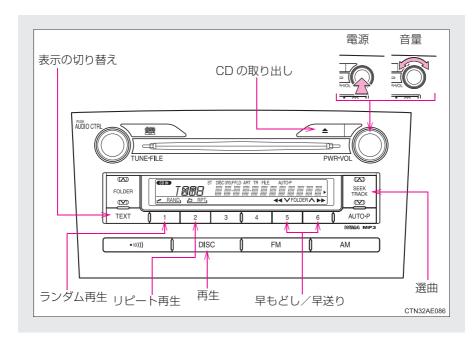
■バッテリーとの接続が断たれたときは

1 〜 6 に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● AUTO•P を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

CD プレーヤー*の使い方

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

[⏏] を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

[SEEK TRACK] の “Λ”（次曲）または “V”（前曲）を押して聴きたい曲の番号を表示させる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

早もどし、早送りする

早もどし、早送りするには、5（◀◀）または 6（▶▶）を押し続けます。

リピート（RPT）再生する

2（RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

1（RAND）を押す

もう一度押すまで無作為な順序で曲が再生されます。

表示を切り替える

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切り替わります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を長押しすることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度長押しする、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、元の 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

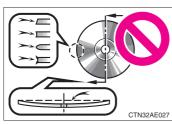
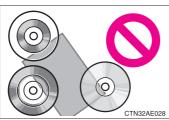
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できない CD、アダプター

以下のようなCD、8cm CD アダプター、Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

●直径 12cm の円形以外の CD

●低品質または変形している CD

●記録部分が透明または半透明の CD

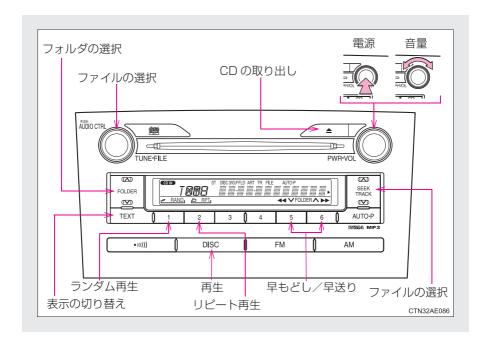
●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

以下のことをお守りいただかないと、CD が聴けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものをいれない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない

MP3/WMA ディスクの聴き方*

MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

→P. 201

早もどし、早送りする

→P. 202

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フォルダを選ぶ・最初のフォルダに戻る

FOLDER の“∧”（次フォルダ）または“V”（前フォルダ）を押して聴きたいフォルダを選ぶ

最初のフォルダにもどるには、“V”を “ピッ”と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する

をまわして、または
の“∧”（次ファイル）または“V”（前ファイル）を押して、聴きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

■ ファイルを繰り返して再生する

2 （RPT）を押す

■ フォルダを繰り返して再生する

2 （RPT）を “ピッ”と音が鳴るまで押す

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する

1 （RAND）を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する

1 （RAND）を “ピッ”と音が鳴るまで押す

表示を切り替える

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切り替わります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、TEXT を長押しすることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度長押しする、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、元の 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

"ERROR"：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

"NO MUSIC"：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷つき使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3/WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、元のファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1　LAYER3、MPEG2　LSF　LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・ 対応規格
　WMA Ver.7、8、9
・ 対応サンプリング周波数
　32、44.1、48 (kHz)
・ 対応ビットレート
　Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
　Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
　※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3/WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

・ ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれたMP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・ 最大ディレクトリ階層：8 階層
・ 最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・ 最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 “.mp3” または “.wma” がついたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ /WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3/WMA の再生について

MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について

MP3/WMA 以外のファイルに “.mp3” または “.wma” の拡張子がついていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

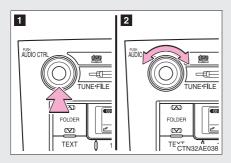
●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3/WMA　は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

■使用できない CD、アダプター（→P. 205）

■CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 206）

快適に聴くために

1 ダイヤルを押してモードを表示させる

2 ダイヤルをまわして以下の設定を変更する

- 音質と音量バランス
  (→P. 215)

  最適な音質と音量バランスで聴くために設定を変更することができます。
- オートマチックサウンドレベライザー ON・OFF (→P. 215)

設定を変更するには

■ 音質モードの切り替え

を押すごとに次のように切り替わります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL
（ASL → FAD に戻る）

■ 音質の調整

をまわして音質のレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左に回す	右に回す
前後音量バランス	FAD	F7 ～ R7	後側大	前側大
低音※	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	-5 ～ 5		
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

※音質レベルは、ラジオまたはCDプレーヤーそれぞれで調整できます。

■ オートマチックサウンドレベライザー（ASL）の調整

音質モードが ASL のとき、 を右に回すと ASL が LOW、MID、HIGH になり、左に回すと ASL が OFF になります。

走行時の室内騒音量に応じて音質や音量を自動的に調整します。

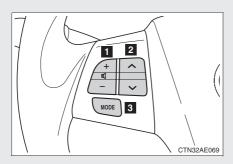
知識

■SRS Labs, Inc. の登録商標

本製品は AM ラジオモードを除き、SRS Labs, Inc. の SRS FOCUS®、SRS TruBass® の技術を使用しています。
FOCUS、TruBass、SRS と 記号は、SRS Labs, Inc. の商標です。
FOCUS、TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

オーディオスイッチでの操作*

次の機能はオーディオスイッチで操作することができます。

1 音量

2 現在のオーディオモードにより、機能がかわります。

- 周波数の探索（ラジオ使用時）
- 選曲（CD 再生時）
- ファイル／フォルダの選択（MP3 ／ WMA 再生時）

3 電源・モード切り替え

電源を入れる

MODE を押す

電源が ON のときは、スイッチを “ピッ” と音がするまで押し続けると電源が OFF になります。

モードを切り替える

オーディオの電源が ON のとき、MODE を押すごとに、次の順にモードが切りかわります。

AM → FM → CD ※ → AM

※ CD はディスクが挿入されていないときは選択できません。

音量を調整する

音量を大きくするときは [+/−] の“+”側を、小さくするときは“−”側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

放送局を選択するには

手順 1 MODE を押して、AM または FM を選択する

手順 2 の“Λ”側、または“V”側を押す

スイッチを押すごとに、記憶されている周波数を選択します。
“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

手順 1 MODE を押して、CD を選択する

手順 2 の“Λ”側、または“V”側を押して、希望の曲を選択する

MP3 ／ WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 MODE を押して、CD（MP3 ／ WMA）を選択する

手順 2 の“Λ”側、または“V”側を押して、希望の曲を選択する

■ フォルダを選択するには

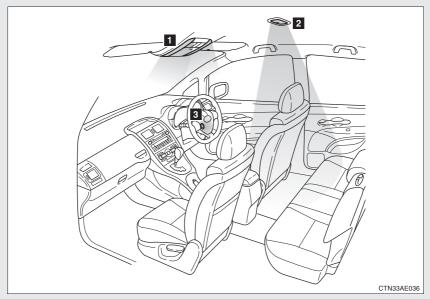
手順 1 MODE を押して、CD（MP3 ／ WMA）を選択する

手順 2 の“Λ”側、または“V”側を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のフォルダを選択する

警告

■事故を防ぐために

運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

室内灯一覧

1 パーソナルライト*（→P. 219）
2 インテリアライト（→P. 220）
3 エンジンスイッチ照明*

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトとエンジンスイッチ照明*が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■イルミネーテッドエントリーシステム

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

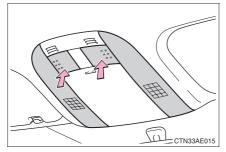
インテリアライトスイッチのドアポジションが ON のとき、電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“エンジンスタートストップ” スイッチのモードにより、インテリアライトが自動的に点灯、消灯します。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

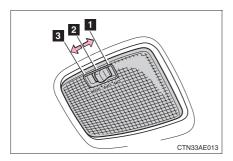
インテリアライトスイッチのドアポジションが ON のとき、ドアの施錠・解錠／開閉、エンジンスイッチの位置により、インテリアライトとエンジンスイッチ照明が自動的に点灯、消灯します。

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 345）

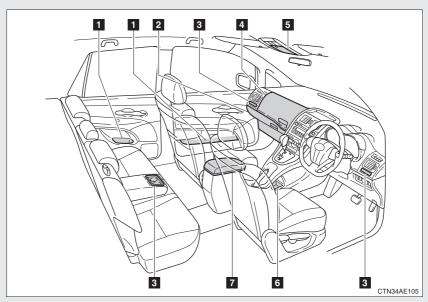
パーソナルライト*

点灯 / 消灯

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インテリアライト

1 ON（点灯）

2 OFF

3 ドアポジション（ドア連動）

収納装備一覧

1 ドアポケット

2 グローブボックス

3 カップホルダー

4 助手席アッパーボックス

5 オーバーヘッドコンソールボックス*

6 コンソールトレイ

7 コンソールボックス

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

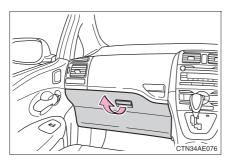
警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

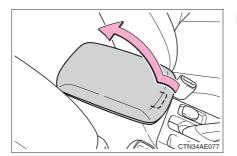
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

レバーを引き上げる

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

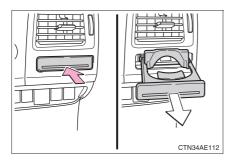
コンソールボックス

レバーを引いてふたを持ち上げる

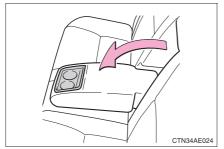
警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

カップホルダー

▶ フロント

カップホルダーを押して出す

▶ リヤ*

リヤセンターアームレストを引き出す

警告

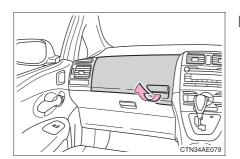
■収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや缶以外の物を置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
思わぬ事故や急停車により、開いたふたが体に当たるなどして、けがをするおそれがあります。

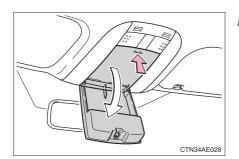
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席アッパーボックス

レバーを引き上げる

⚠ 警告

■走行中の警告

助手席アッパーボックスを必ず閉じてください。
思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

オーバーヘッドコンソールボックス*

ふたを押す

警告

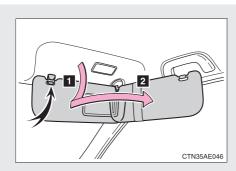
■走行中の警告

オーバーヘッドコンソールボックスを必ず閉じてください。
思わぬ事故や急停車により、けがをするおそれがあります。

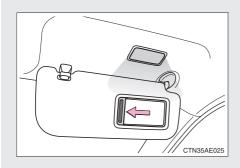
■収納してはいけない物

0.2 kg 以上の物を入れないでください。
0.2 kg 以上の物を入れると、オーバーヘッドコンソールボックスが開き、収納していた物が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

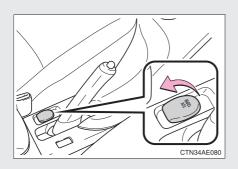
バニティミラー

カバーを開けるとライトが点灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときに長時間ライトを点灯しないでください。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションON モードのとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

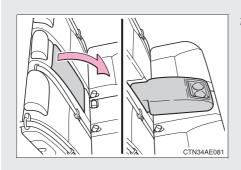
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

リヤセンターアームレスト*

引き出して使用します。

⚠ 注意

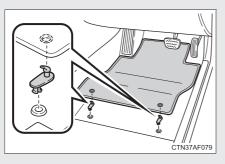
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

CTN37AF079

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

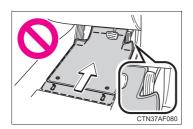
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

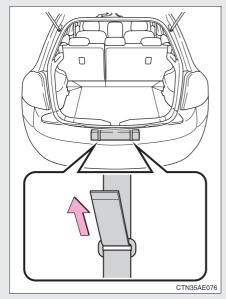
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

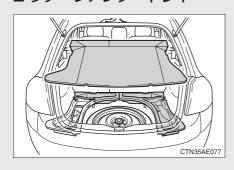
CTN37AF080

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがP(オートマチック車）またはN（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ラゲージルーム内装備

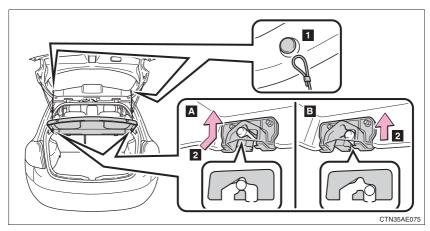
■ 三角表示板固定用バンド*

CTN35AE076

三角表示板を固定する

■ ラゲージアンダートレイ*

CTN35AE077

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■パッケージトレイの取りはずし

1 止めヒモを左右のフックからはずす

2 トレイを取りはずす

通常は“A”の矢印の方向にトレイを動かして取りはずします。
ただし、トレイを“A”の矢印の方向に動かすことができないときは、“B”の矢印の方向にトレイを動かして取りはずします。

お手入れの仕方

4

4-1. お手入れの仕方

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

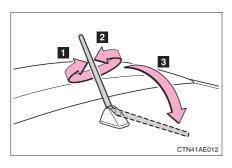
お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを取りはずしたり格納することができます。

1 取りはずす
2 取り付ける
3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

●車庫の天井などにアンテナがあたるとき

●カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 50)

⚠ 警告

■車両への水の浸入

● 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

● SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 75)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■清浄するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとにおこなってください。

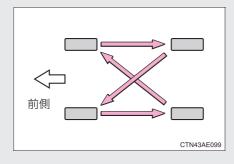
■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 標準タイヤ

<table>
<tr><th>タイヤサイズ</th><th>エンジン</th><th>タイヤが冷えているときの空気圧
kPa (kg/cm^2)</th></tr>
<tr><td>185/65R15 88S</td><td>1NZ-FE（FF）</td><td>240（2.4）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15 91S</td><td>1NZ-FE（FF）</td><td>240（2.4）</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE（FF）</td><td>230（2.3）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15 91S</td><td>1NZ-FE（4WD）</td><td rowspan="4">220 (2.2)</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE
(4WD)</td></tr>
<tr><td>205/55R16 91V</td><td>1NZ-FE,
2ZR-FAE</td></tr>
<tr><td>215/45R17 87W</td><td>2ZR-FAE</td></tr>
</table>

▶ スペアタイヤ

タイヤサイズ	エンジン	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T125/70D17 98M	1NZ-FE, 2ZR-FAE	420 (4.2)

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R17 87W 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R17 87W 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

- タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

⚠警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- ●破裂などの修理できない損傷をあたえる
- ●車が横すべりする
- ●車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■低偏平タイヤについて（215/45R17 87W 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

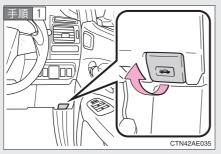
■走行中に空気漏れが起こったら

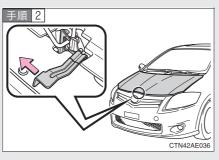
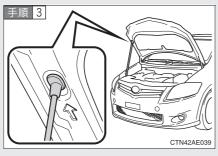
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

ボンネットフックを左方向に押してボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に差し込む

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

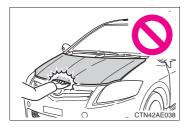
警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

注意

■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

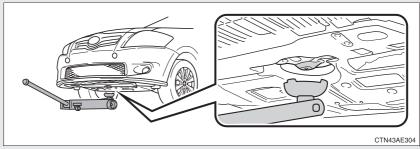
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

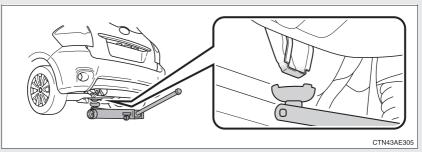
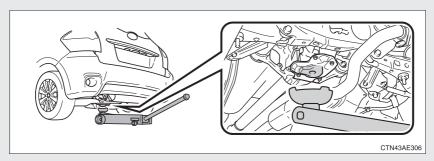
■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

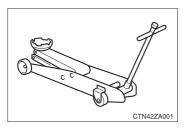
ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

▶ FF 車（前輪駆動）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

警告

■車両を持ち上げる時には

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

CTN42ZA001

- ●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。
- ●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。
- ●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- ●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- ●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを P、マニュアル車はシフトレバーを R にしてください。
- ●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- ●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- ●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下に物を置かないでください。

電球（バルブ）の交換

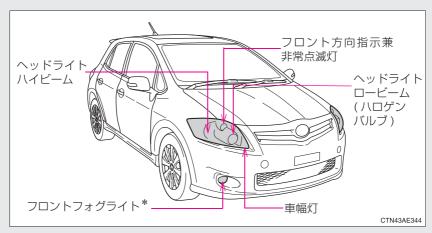
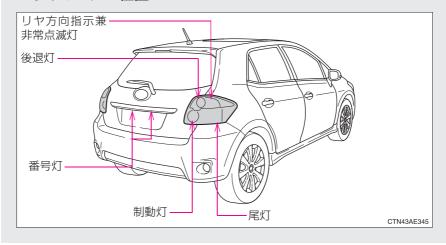
以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

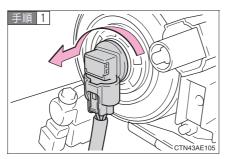
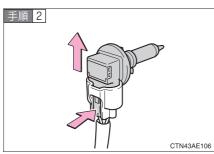
■ 電球の用意

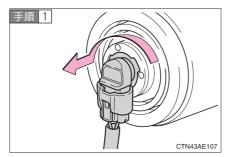
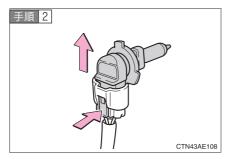
切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 343）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

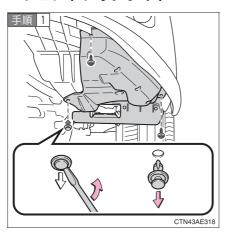
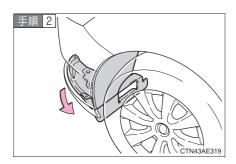
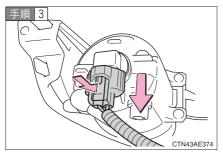
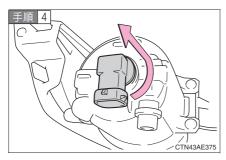
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換の仕方

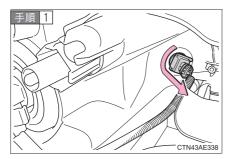
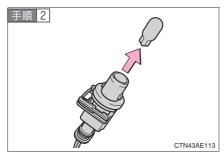
■ ヘッドライトロービーム (ハロゲンバルブ)

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

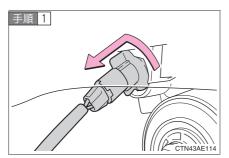
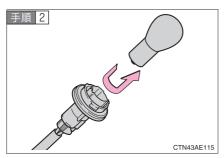
■ ヘッドライトハイビーム

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

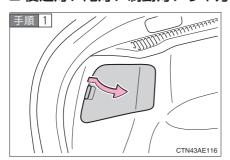
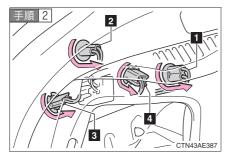
■ フロントフォグライト*

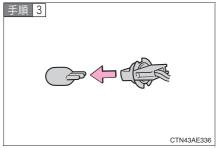
ボルトとクリップを取りはずす

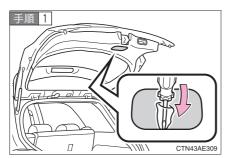
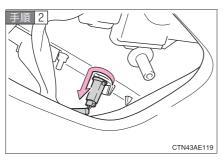
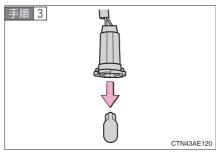
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フェンダーライナーをめくる

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

■ 車幅灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

■ フロントト方向指示兼非常点滅灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

■ 後退灯、尾灯、制動灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯

バックドアを開け、カバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

1 尾灯
2 後退灯
3 制動灯
4 リヤ方向指示兼非常点滅灯

電球を取りはずす

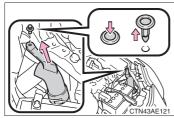
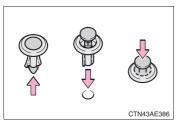
■ 番号灯

バックドアを開け、マイナスドライバーと当て布を使いカバーを取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム（ディスチャージバルブ）
- サイド方向指示灯兼非常点滅灯
- ハイマウントストップライト

知識

■左側のヘッドライト、車幅灯、フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは

エアクリーナーダクトの上部をはずすと、交換しやすくなります。

クリップを取り付けるときは、左の図のように取り付けてください。

交換後は、必ずエアクリーナーダクトの上部をしっかりと取り付けクリップで固定してください。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライト*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常に戻ると再点灯します。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライト*について

●交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因となることがあります。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

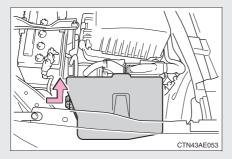
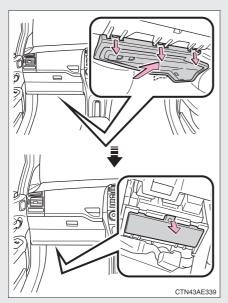
手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

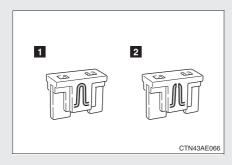
▶ 助手席足元

CTN43AE339

足元のカバー*を取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 264) で確認する

手順 4 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズはずしは、トヨタ販売店でお買い求めください。

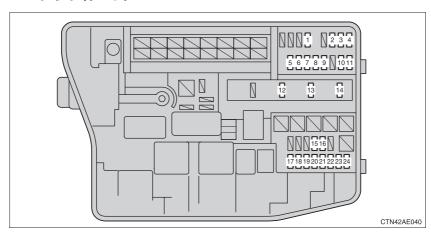
CTN43AE066

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

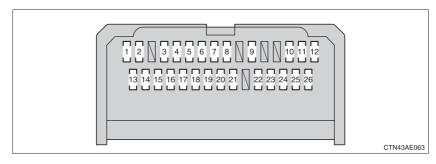
*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-B2	10 A	エアコン、スマートエントリー&スタートシステム
2	ECU-B	10 A	メインボデー ECU、メーター、ETC、VSC、バックガイドモニター
3	RAD NO. 1	15 A	オーディオ、ナビゲーションシステム
4	DOME	10 A	室内灯、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコン、バニティライト、ラゲージルームライト、エンジンスイッチ照明
5	AM2 NO. 2	7.5 A	メインボデー ECU
6	ALT-S	7.5 A	充電系
7	TURN-HAZ	10 A	方向指示灯
8	ETCS	10 A	EFI システム
9	AM2	30 A	始動系、IG2 NO. 2
10	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
11	IGT/INJ	15 A	EFI システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	EFI MAIN	20 A	EFI システム、EFI NO. 1、EFI NO. 2
13	HORN	10 A	ホーン
14	IG2	15 A	EFI システム、始動系、IG2 NO. 2、IGN、メーター
15	FR DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
16	ABS NO. 2	30 A	—
17	WIP-S	7.5 A	—
18	IG2 NO. 2	7.5 A	始動系
19	EFI NO. 2	10 A	EFI システム
20	EFI NO. 1	10 A	EFI システム
21	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）、メーター
22	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
23	H-LP RH LO	10 A ※1 15 A ※2	右側ヘッドライト（ロービーム）
24	H-LP LH LO	10 A ※1 15 A ※2	左側ヘッドライト（ロービーム）

※1：ヘッドライトロービームがハロゲンバルブ車
※2：ヘッドライトロービームがディスチャージバルブ車

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、光軸調整ダイヤル、メーター照明、EFI システム
2	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、室内灯、メインボデーECU
3	FR DOOR	20 A	パワーウインドウ
4	RL DOOR	20 A	パワーウインドウ
5	RR DOOR	20 A	パワーウインドウ
6	SUNROOF	20 A	ムーンルーフ
7	CIG	15 A	アクセサリーソケット
8	ACC	7.5 A	ドアミラー、オーディオ、ナビゲーションシステム、メインボデー ECU、スマートエントリー&スタートシステム、ETC
9	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター、EFI システム
10	RR FOG	7.5 A	—
11	IGN	7.5 A	ステアリングロック、SRS エアバッグシステム、EFI システム、スマートエントリー&スタートシステム、通信系、始動系
12	METER	7.5 A	メーター
13	SEAT HTR	15 A	—

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	HTR-IG	10 A	エアコン、リヤウインドウデフォッガー
15	WIPER	25 A	フロントワイパー
16	RR WIPER	15 A	リヤワイパー
17	WASHER	15 A	ウォッシャー
18	ECU-IG NO. 1	10 A	オートレベリングシステム、メインボデー ECU、エレクトリックパワーステアリング、冷却ファン、シフトロックシステム、ABS、VSC、ナビゲーションシステム、4WD システム、通信系、バックガイドモニター
19	ECU-IG NO. 2	10 A	後退灯、充電系、ムーンルーフ、リヤウインドウデフォッガー、エアコン、フロントワイパーデアイサー、方向指示灯、非常点滅灯、助手席シートベルト非着用警告灯、EFI システム
20	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
21	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、ABS、メインボデー ECU、EFI システム、シフトロックシステム、VSC
22	DOOR	25 A	パワードアロックシステム、メインボデー ECU
23	ACC-B	25 A	CIG、ACC
24	4WD	7.5 A	4WD システム
25	FR FOG	15 A	フロントフォグライト、メーター
26	AM1 ※	7.5 A	始動系、EFI システム、シフトロックシステム、ACC、CIG

※：スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 252)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

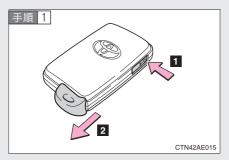
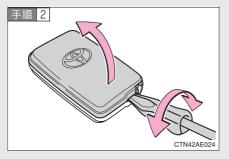
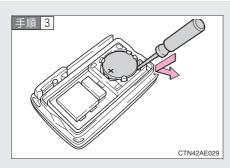
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

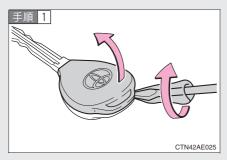
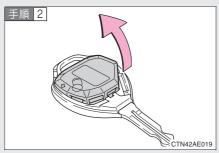
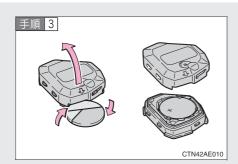
■ 用意するもの

● 布を巻いたマイナスドライバー

● リチウム電池 CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

■ 電池交換の仕方（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

■ 電池交換の仕方（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

カバーをはずす

モジュールを取り出す

コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- ●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまに触らせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

CTN42AE028

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

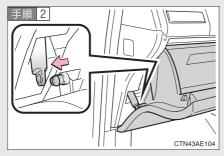
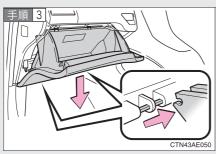
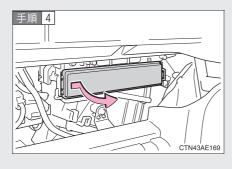
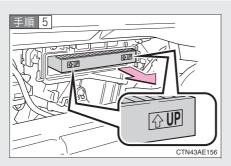
■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルター

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換の仕方

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にする

グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

グローブボックスを持ち上げ、下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km ※] ごと
交換：30,000km [15,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

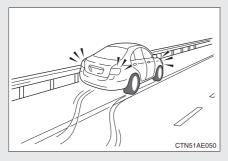
トラブルが起きたら 5

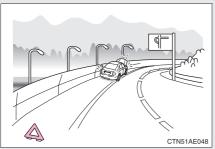
5-1. まず初めに

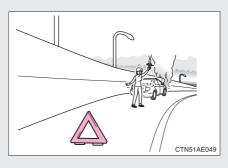
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

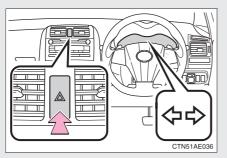
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 279)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 280)

非常点滅灯

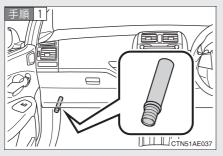
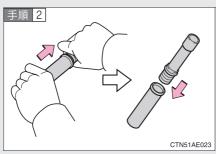
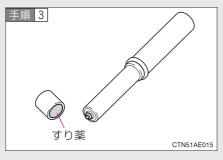
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む

先端のふたをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない

●発炎筒は、お子さまに触らせない

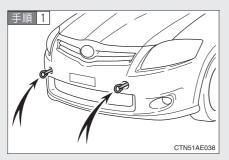
けん引について

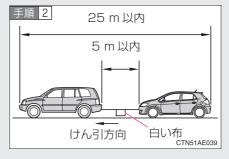
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

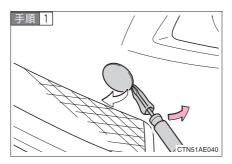
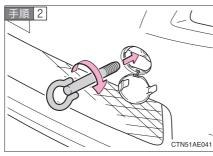
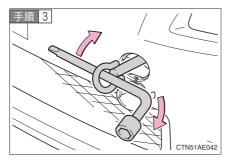
布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを“ACC”または“ON”（スマートエントリー＆ スタートシステム非装着車）にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付け方

マイナスドライバーと当て布を使ってふたをはずす

けん引フックを穴に差しこみ軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 303

警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■車両を運搬するときは

必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

警告

■**けん引中の運転について**

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
  ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動してることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- ● エンジンの回転数
- ● 車速
- ● ブレーキペダルの操作状況
- ● アクセルペダルの操作状況
- ● オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- ● 助手席乗員の有無
- ● 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- ● 運転席のシート位置
- ● エアバッグ作動に関する情報
- ● エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー（オプティトロンメーターはメッセージも同時に表示されます →P. 299）

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯（アナログメーター） エンジンオイルの圧力異常
C （点滅）	**高水温警告灯（オプティトロンメーター）** ガソリンエンジン冷却水温の異常（→P. 328）

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常（VSC 装着車）
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・EPS の異常
VSC OFF （点滅）	**VSC 警告灯（アナログメーター）＊** ・VSC システム、TRC システムの異常
	スリップ表示灯＊ ・VSC システム、TRC システムの異常
4WD	**4WD 警告灯（アナログメーター）＊** ・4WD システムの異常
	ディスチャージヘッドライト **オートレベリング警告灯＊** ・自動光軸調整システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯（アナログメーター）＊ いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
F （点滅）	**燃料残量警告灯（オプティトロンメーター）** 燃料の残量： ・遅い点滅（約 7.5 L 以下） ・速い点滅（約 5.3 L 以下）	燃料を補給
	燃料残量警告灯（アナログメーター） 燃料の残量（約 7.5 L 以下）	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	マスターウォーニング（オプティトロンメーター）＊ システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 295

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

ただちに処置してください（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	なし	（8 秒間点灯）	**スマートエントリー&スタートシステム警告灯＊** 電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	3 回		**スマートエントリー&スタートシステム警告灯*** 電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			スマートエントリー&スタートシステム警告灯* 電子キーを携帯していない状態かつ、オートマチック車はシフトレバーが P の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯する

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯/警告ブザーについて

電圧が低い、または低下した場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

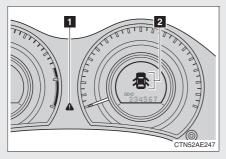
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは（オプティトロンメーター）

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ブレーキ チェック ⚠	・**ブレーキ液の不足** ・**ブレーキ系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。
充電系チェック	**充電系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD チェック	**4WD システム*の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ステアリング ロック確認	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
ABS チェック	**ABS / ブレーキアシスト（VSC 装着車）の異常** 警告ブザーが鳴ります。
エアバッグ チェック	**SRS エアバッグ / プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
エンジン チェック	**エンジン電子制御システム、電子制御スロットル、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
VSC チェック	**TRC *、VSC *の異常** 警告ブザーが鳴ります。
パワー ステアリング チェック	**EPS の異常** 警告ブザーが鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
	バックドアが確実に閉まっていない	バックドアを閉める
パーキングブレーキ 未解除	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h を超えた** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
給油して 下さい	**燃料の不足** 警告ブザーが鳴ります。 (約 7.5 L 以下)	燃料残量を点検し、燃料を補給する。 DISP ボタンを長押しすることで、表示を消すことができます。

ただちに処置してください（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告メッセージ	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	なし	キーが見つかりません （8 秒間点灯）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが見つかりません	電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
		キーが見つかりません	電子キーを携帯していない状態かつ、オートマチック車はシフトレバーが P の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯する

警告ブザー		警告メッセージ	警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	Pレンジに入れて下さい キーが見つかりません （交互に表示） （オートマチック車）	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがP以外の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する
1回	なし	キーバッテリ残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する （→P. 269）
1回	なし	始動時はブレーキを踏んで下さい （オートマチック車）	“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFの状態でいずれかのドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードに2回した	ブレーキを踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押す

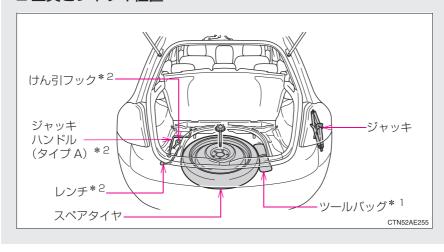
警告ブザー		警告メッセージ	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	なし	始動時は クラッチを 踏んで下さい （マニュアル車）	“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードに 2 回した	クラッチを踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押す
1 回	なし	ステアリング ロック未解除	“エンジンスタートストップ”スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押す

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 242 をご覧ください。)

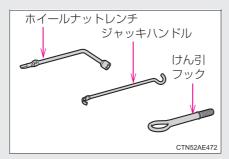
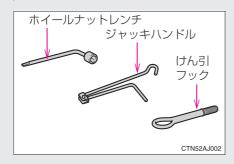
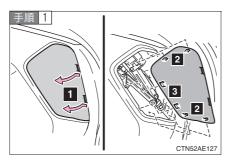
■ ジャッキで車体を持ちあげる前に

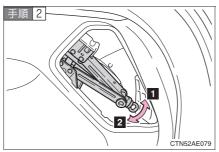
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

＊1: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

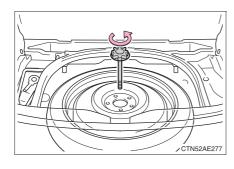
＊2: 車両型式によってツールバッグの中に入っていることがあります

■ ツールバッグ

▶ 分割式ジャッキハンドル設定車（タイプ B）

▶ 折りたたみ式ジャッキハンドル設定車（タイプ C）

ジャッキの取り出し方

カバーを取りはずす

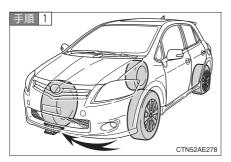
1、2、3 の順番でツメを取りはずす。

1 締まる

2 ゆるむ

応急用タイヤの取り出し方

ラゲージマットを取り出す

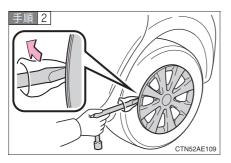
スペアタイヤのとめ具を左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

CTN52AE278

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

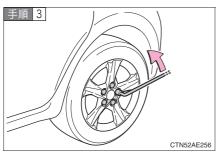
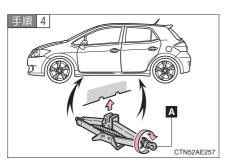
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

CTN52AE109

ホイールキャップをはずす※

※ スチールホイールのみ

CTN52AE256

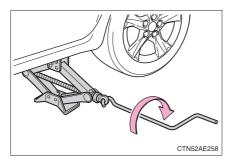
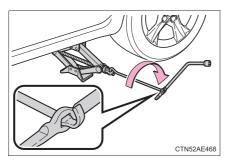
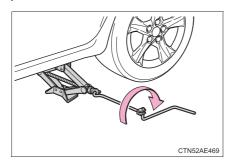
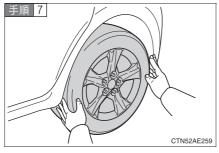
ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

手順 4

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

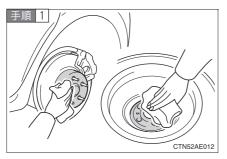
手順 5

タイプ B：ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける。

手順 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

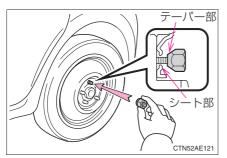
▶ タイプ A

▶ タイプ B

▶ タイプ C

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

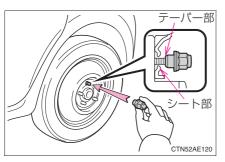
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にしてください。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす

手順 3 車体を下げる。

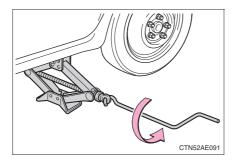
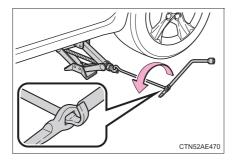
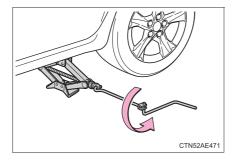
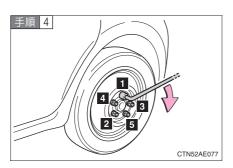
▶ タイプ A

CTN52AE091

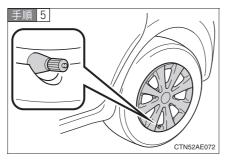
▶ タイプ B

CTN52AE470

▶ タイプ C

CTN52AE471

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。

※ スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません。）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- ●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- ●空気圧を必ず点検してください。(→P. 342)

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけががにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないためほかの車に使ったり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使わない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- ●ジャッキを使用するときはしっかりとした傾きのない平坦な床面で行ってください。

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

● 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

● タイヤ交換を行うときはしっかりとした傾きのない平坦な床面で行ってください。

● ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

● タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

● ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検をうける

● ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。（→P. 245）

上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や傷を負う事故につながるおそれがあります。

■**応急用タイヤを使用するときは**

● お客様のお車専用になっているため、ほかの車には使用しない

● 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しない

● できるだけ早く通常のタイヤと交換する

● 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避ける

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS &ブレーキアシスト
- VSC *
- TRC *
- ナビゲーションシステム*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*

＊: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

■タイヤ交換について

ホイールナットレンチをパイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 117, 122）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 120, 123）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 117, 122）にしたがって、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。（→P. 72）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 324）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 317）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 324）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の仕方がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを約 15 秒以上押し続ける

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏んで “エンジンスタートストップ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

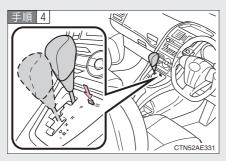
上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモード（スマートエントリー＆ スタートシステム装着車）、またはエンジンスイッチを“ACC”（スマートエントリー＆ スタートシステム非装着車）にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4 シフトロック解除ボタンを押す

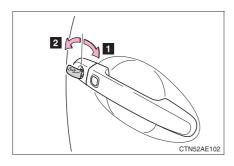
ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 20)

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 26）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

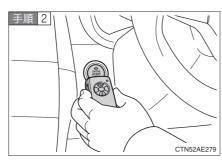
ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 20）を使って操作します。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切り換え、エンジン始動の方法

▶ オートマチック車

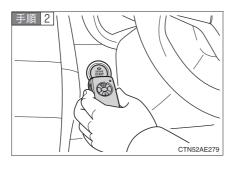
手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジンスタートストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードを切り替えることができます。(→P. 119)

エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

▶ マニュアル車

手順 1 シフトレバーが N の状態でクラッチペダルとブレーキペダルを踏む

手順 2

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジンスタートストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、クラッチペダルとブレーキペダルから足を離して“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードを切り替えることができます。(→P. 119)

エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏み込んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止の仕方

▶ オートマチック車

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーをPにして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

▶ マニュアル車

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーをNにして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

■電池交換について

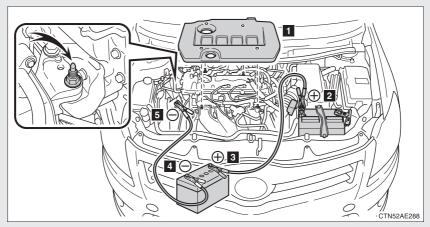
上記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 269)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

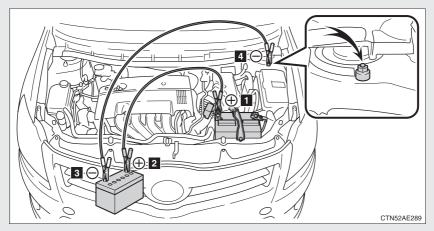
▶ 2ZR-FAE エンジン搭載車

1 エンジンカバーをはずす

2 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

5 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 スマートエントリー&スタートシステム装着車は、“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、次の操作をしてから自車のエンジンをかける

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチをいったん“ON”にします。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう以下のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- ●バッテリーに寄りかかったりしない
- ●誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

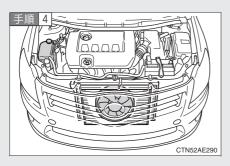
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

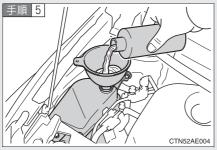
ファンが作動している場合：

水温計の目盛り（オプティトロンメーター）または針（アナログメーター）が下がってきてからエンジンを止める

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する

手順 4

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

手順 5

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 339）

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●水温計の一番上の目盛りが点滅（オプティトロンメーター）、またはゲージがレッドゾーンに入る（アナログメーター）

●エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトからはなしてください。

●エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

▶ FF 車（前輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてエンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

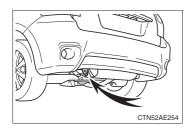
手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動し、4WD オートモードになっていることを確認する（→P. 168）

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

知識

■緊急用フックについて

CTN52AE254

スタックして走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうために使用します。
この車で他車をけん引することはできません。

警告

■脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、ほかの車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかしをしないでください。
- 前頁で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

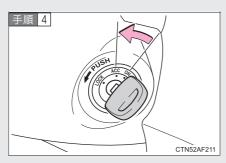
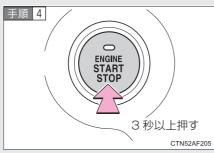
手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

●ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

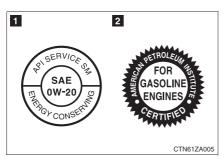
指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン（オートマチック車） 無鉛プレミアムガソリン（マニュアル車）	50

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">指定銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル
SM 0W-20 ※
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 10W-30
トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20
—API SL, EC SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30
—API SL, EC SAE 10W-30</td><td>1NZ-FE</td><td>3.4</td><td>3.7</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE</td><td>3.9</td><td>4.2</td></tr>
</table>

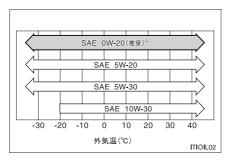
※　0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
  粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	1NZ-FE	5.5
	2ZR-FAE (オートマチック車)	5.8
	2ZR-FAE (マニュアル車)	5.6

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード　TC	1NZ-FE	FF（前輪駆動）	8.09
		4WD（4 輪駆動）	7.98
	2ZR-FAE	FF（前輪駆動）	8.11
		4WD（4 輪駆動）	7.98

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MT ギヤオイル LV 75W (API GL-4 SAE 75W)	2.4

リヤディファレンシャル（4WD 車のみ）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー（4WD 車のみ）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	
▶ 1NZ-FE エンジン搭載車	
VSC 非装着車	64 以上
VSC 装着車	69 以上
▶ 2ZR-FAE エンジン搭載車	
VSC 非装着車	60 以上
VSC 装着車	65 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）	駆動方式
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※ 数	4 ～ 7	FF （前輪駆動）
	5 ～ 8	4WD （4 輪駆動）

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブベルト

<table>
<tr><th>項目</th><th>エンジン</th><th>基準値 [mm]</th></tr>
<tr><td rowspan="2">たわみ量
ジェネレーター
ウォーターポンプ
クランクシャフト
エアコンコンプレッサー
CTN61AE021
押力 98 N(10 kgf) (冷間時)</td><td>1NZ-FE</td><td>12.5 ～ 13.5</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE</td><td>7.6 ～ 10</td></tr>
</table>

クラッチ

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ

▶ 標準タイヤ

<table>
<tr><th>タイヤサイズ</th><th>エンジン</th><th>タイヤが冷えているときの空気圧
kPa (kg/cm^2)</th></tr>
<tr><td>185/65R15 88S</td><td>1NZ-FE（FF）</td><td>240（2.4）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15 91S</td><td>1NZ-FE（FF）</td><td>240（2.4）</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE（FF）</td><td>230（2.3）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15 91S</td><td>1NZ-FE（4WD）</td><td rowspan="4">220 (2.2)</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE（4WD）</td></tr>
<tr><td>205/55R16 91V</td><td>1NZ-FE,
2ZR-FAE</td></tr>
<tr><td>215/45R17 87W</td><td>2ZR-FAE</td></tr>
</table>

▶ スペアタイヤ

タイヤサイズ	エンジン	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T125/70D17 98M	1NZ-FE, 2ZR-FAE	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドライト） ロービーム（バルブタイプ：H11）	 60 35 55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	16
	尾灯	5
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	インテリアライト	8
	パーソナルライト*	5
	ラゲージルームライト	5
	バニティライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NZE151H	1NZ-FE （1.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
NZE154H		4WD（4 輪駆動）
ZRE152H	2ZR-FAE （1.8L ガソリン）	FF（前輪駆動）
ZRE154H		4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 22)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 32)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし
	半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 157)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="4">イルミネーション
(→P. 218)</td><td rowspan="2">消灯までの時間</td><td rowspan="2">15 秒</td><td>7.5 秒</td></tr>
<tr><td>30 秒</td></tr>
<tr><td>解錠時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>エンジンスイッチ OFF 後の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
DISP	ディスプレイ
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
FF	フロントエンジンフロントドライブ
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

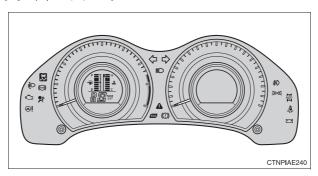
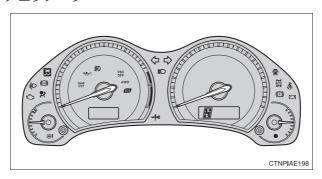
え

し

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した	P. 289	警告灯がついたときは

▶ オプティトロンメーター

CTNPIAE240

▶ アナログメーター

CTNPIAE198

■警告灯一覧

警告メッセージが表示された

P. 295 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

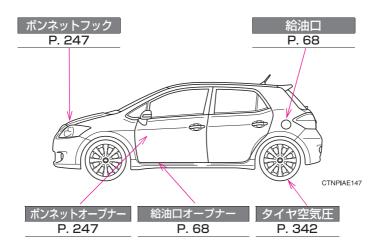
● 警告灯が点灯、点滅している（→P. 289）

● 警告メッセージが表示されている（→P. 295）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 29 P. 65 P. 123 P. 159
	車外に出たとき	P. 29
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	P. 29
	ワイヤレス機能でロックスイッチを押したとき	P. 29 P. 33
	“エンジンスタートストップ”スイッチを押したとき	P. 29
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 129
	シフトダウンしたとき	P. 129
	ブレーキを踏んだとき	P. 114
	D ポジションでのパドルシフト操作時または M ポジションで走行しているとき	P. 129

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	50 L
燃料の種類	P. 69, 336
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 342
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 1NZ-FE エンジン車： 3.4 L 2ZR-FAE エンジン車：3.9 L オイルとフィルター交換時 1NZ-FE エンジン車： 3.7 L 2ZR-FAE エンジン車：4.2 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL、EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL、EC SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ア-32

M 12F53
01999ー12F53
NAC-2012年１月17日
2012年１月24日 初版
オーリス